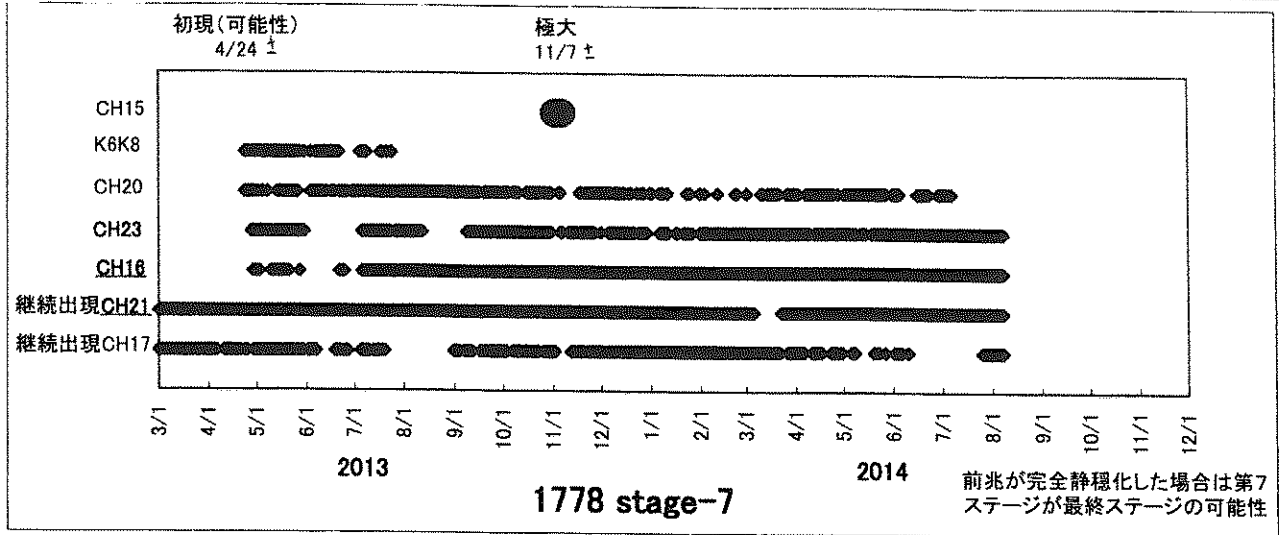


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報

8月8日午後現在未だ前兆継続中 但し前兆微弱化モニター有→数週間変化を見ます 少なくとも11月08日以前発生の可能性否定



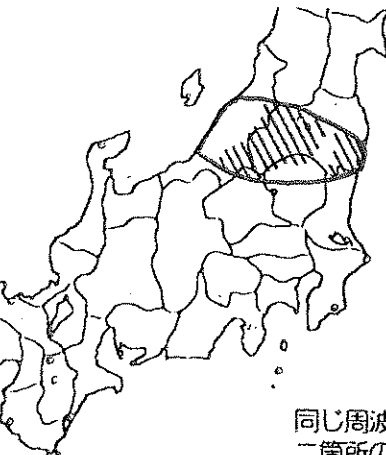
2008年07月から出現継続しだした顕著な地震前兆=No.1778の続報です。過去例の中では前兆継続が最長(6年以上)となるピークが極めて多数出現し、現在までに7段階の変化をしている特殊な前兆形態です。

現在が第7ステージ認識ですが、第7ステージの初現認識が難しく、2013年04月を初現の可能性と認識していました。極大は2013年11月07日±で、もうひとつの大型地震前兆No.2443の極大の中にNo.1778の極大が無いが再調査致しましたが、該当するものは認識できず、11月07日±がNo.1778の第7ステージ前兆の極大の可能性と認識されます。前兆減衰がなく、初現~極大の関係で計算しますと、現在の08月上旬時期に前兆終息となる可能性が示唆されていました。しかし、本日08月08日午後現在、CH16, 17, 21, 23 の4観測装置の特異状態が終息していません。但し、昨年07月から一年以上継続していたCH16特異は完全振り

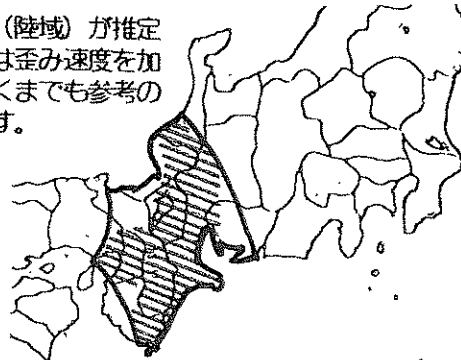
切れ状態で、アナログ記録計のレンジを500mV にしていましたが、本日は一気に変動が小さくなり、通常の20mVレンジ記録でも録れるほど変動値が小さく、また基線電圧値も正常値に近づいてきました。No.1778前兆は顕著な時期は30台以上の観測装置に前兆が出現していましたが、現在は4台の観測装置のみと減少しており、フラクタル的に現れている様に見える段階的前兆としては、極めて弱くなっていることは確かです。

2013年11月07日±極大認識が正しい場合、前兆終息日を確認して、発生日を $T_{map}:T_{pp}=3.9:1$  経験則で計算予定です。前兆が弱く現れている場合、初現が若干遅く現れている可能性もあるため、08月17日±程度までは前兆終息の可能性が否めません。現状少なくとも11月08日以前発生の可能性は否定できます。

第7ステージの初現認識は、現在の認識以外には難しい為、実際の前兆終息を観測して発生時期を推定する以外ありません。



太線領域内(陸域)が推定領域。斜線は歪み速度を加味した、あくまでも参考の推定領域です。



同じ周波数帯に影響局となる異なる地域の局があるため、二箇所の可能性が求められるが、近畿の可能性が高い。

今後の観測情報にご注意下さい。

No.2518(7/22)で報告のとおり、基線幅BTが二つの影響局で領域が示される状況の場合に出現する可能性があり、No.1778でも推定領域作図をし直しました。またPBFも波形再確認し、作りなおしました。東北領域の場合は影響局が辻褄が合わない観測装置が3台以上あり、やはり現在の近畿領域の可能性が考え易い状況です。左図は無理やり求めた東北圏の場合(左図)と近畿圏の場合(右図)です。斜線域は歪み速度を加味した参考推定領域です。詳しくは次回の観測情報で報告予定です。

他

◆発生した場合、被害が予想されるM7±以上規模が推定される地震の前兆は現在、No.1778とNo.2443の二つのみです。No.2443はNo.1778よりも先に発生する可能性が示唆されています。観測情報参照。その他、関東、東海、東南海、南海等の巨大地震が示唆される前兆も、富士山の火山前兆も観測されておりません。

Copyright 2014 YSBO 八ヶ岳南麓天文台

※本続報No.67は、FAX による地震前兆検知実験観測情報No.2522をそのまま転載させて頂きました。ご了承下さい。